

コリウス ウィザード®・シリーズ

耐暑性のあるリーフアイテム。認知度のとても高い葉物品種です

- コンパクトで矮性なウィザード®・シリーズは、ちょうどよい大きさの葉をもつ、とてもカラフルなコリウスです。戸外の花壇やコンテナガーデンでも、抜群のパフォーマンスが期待できます。
- よく揃い、分枝にも恵まれた品種。開花、結実ともに遅いので、葉物としての観賞期間を長くとれます。
- コリウスの多粒播き、あるいは複数本定植による企画品は、店頭でいつも人気の高い定番アイテムです。
- 丈は25-30cmにまで育ちます。
- ウィザード®は、手入れがあまり必要ない品種なので、商業地の花壇への植え込みとしても最適です。
- たとえば、他の日陰を好む一年生の草花などと一緒に、洗練された美しい花壇を作ることも可能です。
- 寄せ植えなどにも適したコリウスは、実生の特性を素直に反映した作りやすい植物です。

本品種の学名: *C. x. hybridus*
種子粒数: 3,500 粒/グラム

プラグ生産ステージ

ステージ1 - 幼根発現まで(4-5日)

- 地温は22-24°Cを維持します。
- 培地は湿らせませんが、過湿にならぬよう注意します。
- 覆土はしません。
- 幼根発現までの間では、発芽に際して光は不要です。
- 土壌 pH は 5.5-5.8 を維持し、EC 値*は 0.75mmhos/cm (2:1) 以下を維持します。
- 発芽に際して、コリウスは土壌の塩類濃度(とくにアンモニウム塩)にとっても影響を受けやすいので注意が必要です。
- アンモニウムのレベルは 10ppm 以下に維持します。

ステージ2 - 主茎形成と子葉展開まで(10日)

- 地温は22-24°Cを維持します。
- 子葉が現れたら土壌の水分を抑えて管理します。苗はいくぶんドライな条件で管理すると、質の高い発根形成が促されます。
- 土壌 pH は 5.5-6.2 を維持し、EC 値*は 1.0mmhos/cm (2:1) 以下を維持します。
- アンモニウムのレベルは 10ppm 以下に維持します。
- 子葉が完全に展開したら、施肥を始めます。肥料は 14-0-14 あるいは硝酸カルシウム-カリウム系を 50-75ppm の濃度で与えます。■ 施肥の後は苗を真水で水洗します。肥料は、かん水 2、3 回に一度くらいの割合で与えます。
- 病気の予防のために、かん水は昼間の早いうちに行い、夕方までに葉に水滴が残らないようにしましょう。

ステージ3 - 生長期・本葉展開まで(14-21日)

- 地温は20-21°Cを維持します。
- 培地はできるだけドライを維持して、発根生理とサイドブランチの生長を促しますが、極端に乾かしすぎで苗を枯らせないように注意しましょう。
- 土壌 pH は 5.5-5.8 を維持し、EC 値*は 1.0mmhos/cm (2:1) 以下を維持します。
- 肥料は、20-10-20 と 14-0-14 (あるいは硝酸カルシウム-カリウム系)を交互にして、濃度を 100-150ppm (N) にまで上げます。
- 肥料は、かん水 2、3 回に一度くらいの割合です。
- 生育の早さに品種差が出た場合、遅いものには施肥頻度を増やすことで、丈の伸長に促成効果があります。
- 化学的処理に頼らず、昼夜の温度差を利用した DIF を利用しましょう。とくに日の出後の最初の 2 時間は、節間伸長の抑制に効果があります。
- 矮化剤を用いる場合、A-レスト、B-ナイン、ボンザイはそれぞれ効果が見られますが、使用にあたっては注意書きをよくお読みの上、ご使用ください。

ステージ4 - ポット上げ・出荷直前まで(7日)

- 地温は16-17°Cを維持します。
- 水やりと水やりの間は、土壌の水分を抑えて一貫してドライな条件で管理します。
- 土壌 pH は 5.5-5.8 を維持し、EC 値*は 0.75mmhos/cm (2:1) 以下を維持します。
- 肥料は必要に応じて、14-0-14 あるいは硝酸カルシウム-カリウム系を 100-150ppm の濃度で与えます。

鉢上げから出荷までのステージ

温度

- 昼間温度: 21-24°C
- 夜間温度: 17-18°C

光(照度)条件

50,000ルクス(5,000 f. c.)を超えるような場合は遮光が必要です。

用土(培地)

水はけがよく、新しく衛生的な、ピート主体の用土を用いましょう。土壌 pH は 5.5-6.0、用土の初期養分値は中庸が適正です。

肥料

- 水やりと1回おきに、15-0-15と20-10-20を交互に150-200ppmで肥料を与えます。
- EC値*は概ね1.0mmhos/cm(1:2)を維持しましょう。
- コリウスはさほど肥料食いの植物ではないので、肥料が多すぎると葉色がぼやけたり、生育不良を生じたりすることがあります。

生長制御

- 株が根付いて根の先端が鉢に達したら、水を抑えながら丈の伸長をコントロールします。
- また他の方法として、肥料(とくにリンとアンモニウム態窒素)を抑えることによって生長を制御することも可能です。
- コリウスは、昼夜の温度差を利用したDIFによく反応し、マイナスDIF(昼間<夜間)で節間伸長の抑制に効果があります。
- 矮化剤を用いる場合、A-レスト、B-ナイン、ボンザイはそれぞれ効果が見られます。

出荷後の管理と手入れ

温度

- 夜間温度: 17-18℃
- 昼間温度: 21-24℃
- 上記の理想的条件を随時維持することは、困難であると予想されますが、できるだけ条件を整えましょう。
- 上述のように、マイナスDIFで節間伸長の抑制のほか、株の出来や草姿バランスにも効果があります。

光条件

- コリウスはよほど直射日光が強くてなければ、露地でも遮光下でも丈夫な植物です。店頭では遮光下に置く方が状態を長く維持することができます。
- 照度が低いと節間が伸びる傾向があります。
- 直射日光が強過ぎると葉焼けを起こすことがあります。

予想される一般的な生育障害

害虫: アブラムシ、カメムシ類、ホウライフライ等

病気: 斑点病、ボトリティス、萎凋病

その他の障害: 日照が弱いと節間が徒長しやすくなります

ウィザード®・シリーズの平均的な生産期間

(作業スケジュールの目安)

播種からポット上げ (512穴)	ステージ1: 4-5日 ステージ2: 10日 ステージ3: 14-21日 ステージ4: 7日
ポット上げから出荷適期 (10cm前後ポット、カットパック)	8-10週

留意点: 本書に記載されている栽培指針や数値は基本概要としてご利用ください。園芸作物の生産期間は、気候や場所、作型、ハウスの条件等によって大きく異なることがあります。

*: EC値(電気伝導度)の数値は、北アメリカのピート主体の培地が算出要素になっているので、日本国内では適合し得ない場合もあります。

PanAmerican Seed

2005年8月 改定

PanAmerican Seed Co.

622 Town Road, West Chicago, Illinois, USA 60185-2698

630 231-1400 Fax: 630 231-3609 www.panamseed.com

© 2002 Ball Horticultural Company

Originally released as PAS03214 in USA in 2003, and under admission translated into Japanese in 2004.

Printed In Japan